



# 診察室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

数年前のことである。米  
国泌尿器科学会雑誌の編集  
委員から、ある論文の査読  
依頼が来た。査読とは、学  
術雑誌に投稿された論文の  
審査を行うことである。原  
稿の内容は、前立腺がんの  
骨転移を治療する新薬の臨  
床効果に関するものであ  
った。

## <35> 新薬

前立腺がんや乳がんは、  
進行すると骨に転移し、転  
移した部位の痛みや病的骨  
折を引き起こすことがあ  
る。前立腺がんでは、骨に  
転移していても、しばらく  
の間はホルモン療法が有効  
であるが、いずれホルモン  
療法が効かなくなり、骨に  
転移したがんの病巣も大き

新薬は、米国の有名な大  
手製薬ベンチャー企業が開  
発したもので、安価ではな  
い抗体医薬品である。現在  
では、日本でも広く治療に  
用いられている。  
論文を詳細に読んでみる  
と、臨床研究に参加して  
きた患者さんの前立腺がん  
の進行度を示すデータがな  
編集委員より、この論文に

く、ホルモン療法が効か  
なくなっている状態もきちん  
と定義されていなかった。  
骨ががんに侵食されていく  
程度を表す生化学的マーカー  
(数字)が示されていた  
が、対象となった患者さん  
の状態が不明瞭であったの  
だ。確かに、その新薬によ  
り、骨ががんに侵食される  
ことは強く抑えられていた  
が、その抑える作用が強い  
分だけ、血液中のカルシウ  
ムの濃度が低くなる副作用  
も強かった。臨床研究に参  
加した病院は多くはメキシ  
コの病院であり、旧東欧の  
国の病院もあったと思つ。  
査読の結果として、原稿  
に不足するデータを加えて  
改訂する必要があると判定  
した。しばらくたってから、  
ついでに論評を書くように  
求められた。編集委員は、  
論文の著者に対して、私の  
意見を考慮した改訂を求め  
たが、不足するデータは追  
加されないまま、論文が公  
表されることになったの  
だ。大手製薬会社が、骨代  
謝に関わるある分子に注目  
して、明確な強い意志を持  
ってこの薬を開発し、急いで  
製品化しようとする、やや  
強引とも言える印象を持  
った。

ほとんど刊行された論文  
を読むと、私の論評以外に  
著名な腫瘍内科医の論評が  
載っていた。彼は、この新  
薬を絶賛していた。私は手  
短ではあったが、論文の内  
容について泌尿器科臨床医  
としての意見を述べ、この  
新薬が患者さんへの福音と  
なることを願つと締めくく  
った。学術雑誌の誠実で公  
正な姿勢に感謝している。